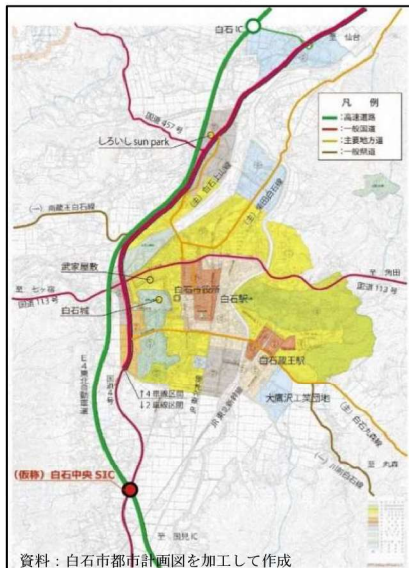


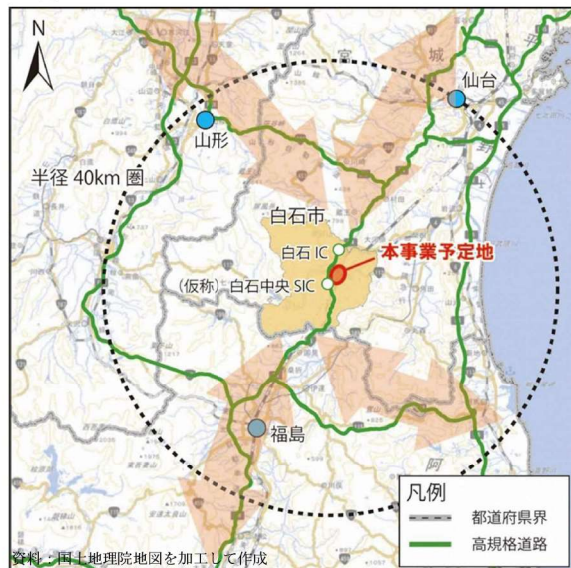
(仮称) 白石中央スマートインターチェンジ周辺整備基本計画 概要版

1. 基本計画の目的

本市では、(仮称)白石中央スマートインターチェンジ（以下、「(仮称)白石中央 SIC」という。）の整備効果を最大限に発揮するための周辺整備の方向性や土地活用の可能性を検証し、評価の高い優良な先進事例を踏まえて、本地域の地域活性化に有効な施設・規模を抽出し、その事業手法や事業スケジュールについて整理するとともに(仮称)白石中央 SIC 周辺整備の基本計画を策定します。



▲スマートIC位置図



▲高速交通網における優位性

2. 整備方針

(1) SIC 周辺整備の全体テーマ (コンセプト)

上位計画である「第六次白石市総合計画」における市が目指す将来像「人と地域が輝き、ともに新しい価値を創造するまち しろいし」の実現に向け、スマートICの設置により、「物流の効率化による企業誘致や企業活動の支援」・「アクセス性向上による交流人口の拡大」・「主要観光地へのアクセス向上と新たな周遊観光ルート形成」が期待されることから、スマートIC 周辺整備の全体テーマ (コンセプト) を下記のように設定しました。

地域全体で賑わいを創出し、しろいしの未来をデザインする
「新たな交流拠点」をめざして

(2) SIC 周辺整備の全体基本方針

全体テーマの「新たな交流拠点」を目指し、スマートICを最大限活用できる周辺整備の全体基本方針を下記のように設定しました。

【SIC 周辺整備の全体基本方針】

- 1 スマートインターチェンジ周辺という利便性を最大限に活かした拠点整備とする
- 2 市民に親しまれ、地域活性化に資する拠点整備とする
- 3 交流人口、関係人口の拡大を目指し白石市の魅力を発信できる拠点整備とする

大きく3つの拠点整備をめざす

第六次白石市総合計画の各分野目標のうちSIC周辺整備に関連する4つの分野目標と市民意向調査から設定

(1) 産業活性化の新たな産業拠点(工業団地)

(2) 賑わいと活力あふれる新たな交流拠点(道の駅)

(3) 健康で生きがいを共有できるスポーツレクリエーション拠点

(3) 整備する拠点の考え方・目標

優位性を活かした新たな「工業団地」

・若年世代や働き盛り世代の雇用場を確保し、産業の活性化を促進する工業施設の集積

新たな機能を備えた「道の駅」

・交通拠点としての立地環境を活かした「南東北のへそ」、「県南の玄関口」の道の駅、観光交流拠点
・激甚化している災害に対応する災害復旧拠点と災害発生時の避難所運営を支援する防災拠点
・公民連携により地域課題を解決する地域センター（子育て応援や買い物弱者の応援施設、あらゆる世代が道の駅で活躍する環境の提供）

心と体の健康を増進する「スポーツレクリエーション拠点」

・世代間交流を実現するスポーツ・レクリエーション拠点
・キャンプやパークゴルフなど多目的に利用できる多目的スペース

3. 配置計画イメージ(案) (次頁)

4. 想定される事業規模

概算事業規模 約106億円

(事業費財源については、補助金及び交付金を最大限に活用し、工業用地においては誘致企業への売却を推進し、市費を抑制します。)

5. 想定される事業スケジュール

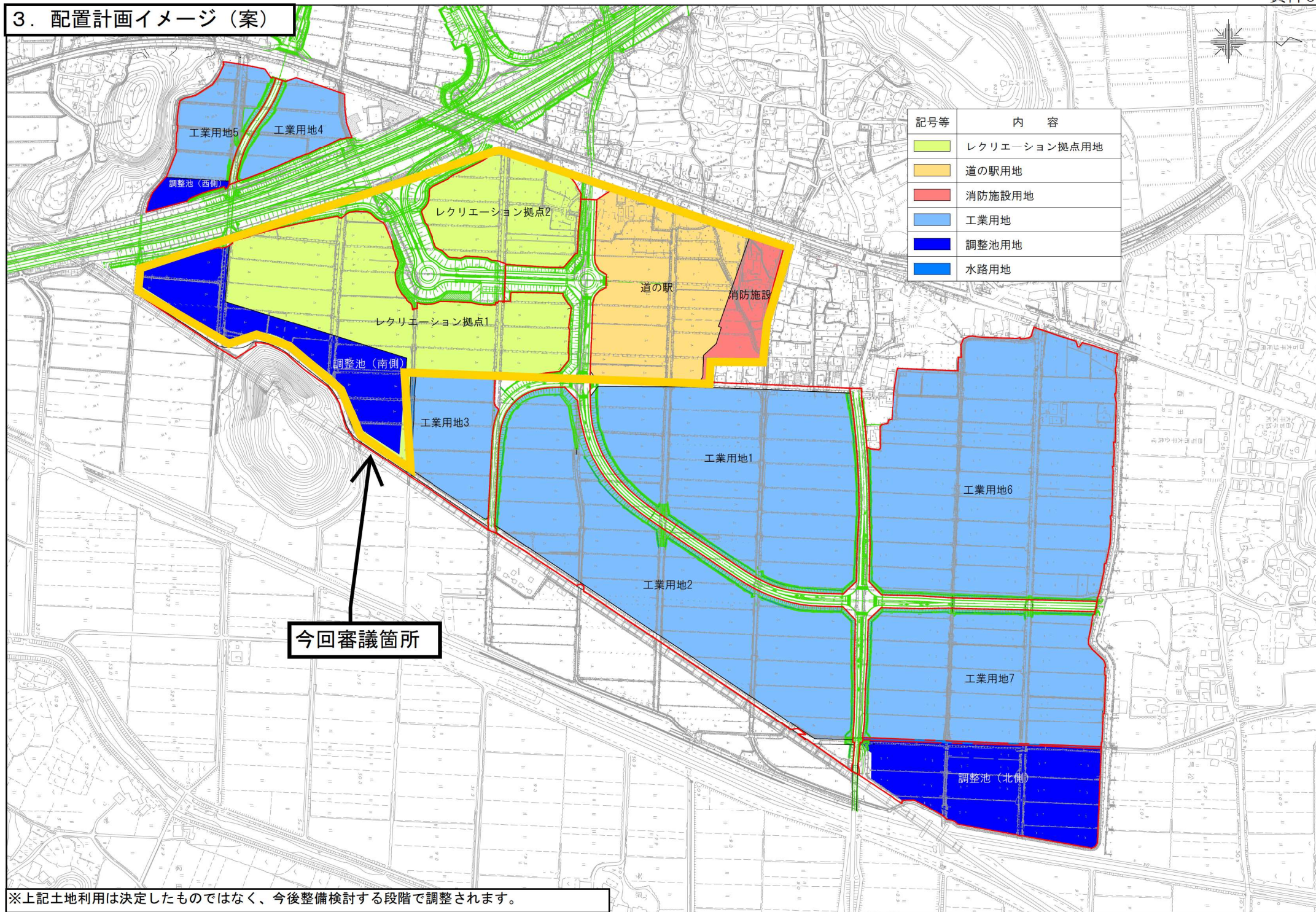
(仮称) 白石中央スマートIC整備の完成に道の駅及びスポーツレクリエーション拠点をオープンさせることを目途とし、PFI可能性調査を実施することを前提として事業スケジュールを想定しています。

工業団地については、農業の集積状況、農振農用地の除外、財政状況、企業誘致等の観点から状況を見定め、段階的に整備を進めることも考えています。

※並行して用地買収を行う

		2021(令和3)年度	2022(令和4)年度	2023(令和5)年度	2024(令和6)年度
周辺整備	計画設計	土木	調査	基本設計・実施設計	
		建築	PFI可能性調査等		基本設計・実施設計 (PFIの場合公募・事業者決定期間を含む)
	工事	土木			土木工事
		建築			建築工事

3. 配置計画イメージ (案)



※上記土地利用は決定したものではなく、今後整備検討する段階で調整されます。